

第2回みやぎ仙南サイクルツーリズム推進会議・作業部会資料

○各市町の協議項目意見

	令和元～2年度事業計画について〔記載内容等〕	【協議1】 みやぎ仙南サイクルツーリズム専用サイトについて	【協議2】 仙南地域サイクリング環境分析調査
白石市	各市町に費用負担があるため、合意形成を慎重に進める必要があると思います。	ケース3またはケース4が望ましいと思います。DMO等でも同様の事業があるので、連携して実施した方が良いのではと思います。経費を抑えた制作・運営が良いと思います。	DMO等でも同様の事業があるので、連携して実施した方が良いのではと思います。
角田市	2の令和2年度事業計画(1)仙南地域サイクリング環境分析調査で、調査時期が令和元年4月～5月になっているが、令和2年ではないでしょうか。	別紙1の②の考え方(みやぎサイクルプラットフォームの活用)が良いのではないのでしょうか。専用サイトを新規に作成するのではなく、既存サイトをできるだけ活用し、手間とお金をあまり掛けない仕組みが良いと思います。	調査、分析は大切なことで、必要なことであると考えますが、資料には概算経費80万円との記載があり、市町村振興総合補助金等の補助事業の活用もあるかと思いますが、各市町からの負担金の額がいかほどになるのかが気になります。
蔵王町			
七ヶ宿町	特に意見はありません。	いずれにせよ維持経費の問題はあるかと思いますが、長期的に実施を見込むのであれば、利用者の利便性を考えてケース3の「専用サイトを新たに作成する」ことが望ましいと考えます。	特に意見はありません。
大河原町	11月予定の首長対象の推進会議資料をイメージしたもの。事業計画には実施手法、地図、写真等を組み込みし、実施内容がわかるようにする。	経費を抑制していくためにはケース2またはケース4。大河原町事務局が仙南の情報提供いただいたものを集約していく形であれば、ケース2で制作し、DMOのHPにリンクし、DMOのHPで県内サイクルツーリズムが見られる状態にすることも考えられる。SNSはフェイスブックで、サイクリスト向けに大河原町事務局が別管理で行う方が良いと考える。	市町単体ではなく、市町を跨ったルートだと、実際に走っているサイクリストの情報が必要。大坂湾南部サイクリングマップ、しまねサイクリングNaviの広域連携マップではサイクリストが推薦コースを提案している。行政側だけが、ここが良いですよ、というだけのマップ制作等は避けたい。サイクリングコースとなりえる根拠をつかんで、推奨すべきと考える。
村田町	特になし	特になし	特になし
柴田町	計画案のとおりでよい。	ランニングコストはかかるが、ケース3のみやぎ仙南サイクルツーリズムの専用サイトを新たに作成する方向で検討してほしい。	特になし。
川崎町	特に無し。	特に無し。	特に無し。
丸森町	令和元～2年度事業の経費が高い。	既存ホームページを活用することで経費を抑えつつ、サイクリストは1つのサイトだけで情報を収集できるためケース4を推奨。	町内で開催しているサイクルイベント等でアンケートを実施しており、サイクリストからの評価・意見・要望等をまとめているため本町としてはあまりメリットを感じられない。各自自治体からのヒアリングで十分と考える。